



2024年4月12日

各位

会社名 株式会社 アスタリスク
代表者名 代表取締役執行役員社長 鈴木規之
(コード番号:6522 東証グロース)
問合せ先 取締役執行役員管理統括室長 山本和矢
(TEL. 050-5838-7864)

2024年8月期 第2四半期連結累計期間の連結業績予想と実績の差異 ならびに通期連結業績予想の修正に関するお知らせ

当社グループは、2023年10月13日に公表した2024年8月期第2四半期(累計)連結業績予想(2023年9月1日～2024年2月29日)と本日発表いたしました実績値との間に差異が生じたので、下記のとおりお知らせいたします。

また、上記実績ならびに最近の業績の動向等を踏まえ、2024年8月期通期連結業績予想(2023年9月1日～2024年8月31日)について、下記のとおり修正いたしましたので、あわせてお知らせいたします。

記

1. 第2四半期業績予想と実績の差異ならびに通期修正連結業績予想

(1) 2024年8月期第2四半期(累計)(2023年9月1日～2024年2月29日)連結業績予想と実績値との差異

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり 四半期純利益
前回発表予想(A) (2023年10月13日)	百万円 1,207	百万円 11	百万円 9	百万円 0	円 銭 0.06
実績(B)	658	△160	△121	△197	△27.76
増減額(B-A)	△549	△172	△130	△197	
増減率(%)	△45.5	—	—	—	
(ご参考) 前期第2四半期連結実績 (2023年8月期第2四半期)	869	△38	△23	△12	△1.75

(2) 2024年8月期通期(2023年9月1日～2024年8月31日)連結業績予想の修正

	売上高	営業利益	経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり 当期純利益
前回発表予想(A) (2023年10月13日)	百万円 2,645	百万円 100	百万円 96	百万円 67	円 銭 9.52
今回修正予想(B)	1,813	△389	△366	△377	△53.06
増減額(B-A)	△831	△490	△463	△444	
増減率(%)	△31.4	—	—	—	
(ご参考) 前期実績 (2023年8月期)	1,759	△192	△179	△170	△24.01

2. 業績予想と実績の差異ならびに業績予想修正の理由等

(1) 第2四半期連結累計期間

当社グループは米国市場において、小売業界、製造業界、物流業界を中心に新規大型案件の顧客との交渉を進めてまいりましたが、顧客の投資時期の遅れなどによる交渉の長期化、AsReaderのデモ期間が想定よりも長期に及び、受注獲得の進捗が遅れており、売上高が283百万円減少、営業利益が76百万円悪化する結果となりました。

日本国内市場においては、小売業界、物流業界に見込んでいた大型案件の顧客導入スケジュールの延期や商談長期化に伴う受注の遅れにより、売上高が216百万円減少、営業利益が77百万円悪化、国内子会社の飲食店において当初の見込みに対して来店者数の減少、運営コストの増加により売上、利益とも悪化、営業利益が18百万円悪化する結果となりました。

親会社株主に帰属する四半期純利益につきましては、繰延税金資産取崩による69百万円の法人税等調整額の影響により下方修正することとなりました。詳細につきましては、本日別途発表いたしました「法人税等調整額の計上に関するお知らせ」をご参照ください。

なお、販売費及び一般管理費につきましては概ね計画通りとなっております。

(2) 通期連結会計年度

2023年10月13日公表の連結業績予想に対して大幅に悪化する見込みとなりました。これは、2023年10月13日公表の連結業績予想策定時に見込んでいた米国市場における小売業界、製造業界、物流業界を中心に新規大型案件の顧客との交渉・AsReaderのデモ期間が想定よりも長期化していることに伴い獲得の進捗が遅れたことにより、売上高が505百万円減少、営業利益が133百万円悪化する見通し、日本国内市場において獲得を見込んでいた小売業界、物流業界向けの大型案件の顧客導入スケジュールの延期や商談長期化に伴う進捗の遅れ及び、原材料価格の高騰による商品原価の増加により売上高が220百万円減少、営業利益が173百万円の悪化、国内子会社の人追跡(画像認識レジ)技術の実証実験を行っている飲食店において、当初の見込みに対して来店者数の減少、運営コストの増加による売上、利益が悪化し、営業利益が30百万円悪化、加えて、期末日時点における棚卸資産に対して滞留することが見込まれる製品に対する商品評価損の計上が100百万円発生する見通しとなりました。これらの状況から、通期の業績予想を下方修正することにいたしました。

(3) 今後の展開

当社グループは、今後も積極的なビジネスを展開していきます。米国市場においては、現在進行中の長期交渉を成果に結び付け、売上と利益の向上を図ります。また、日本国内市場では、立ち上げに遅れが生じている新規事業や新製品開発を迅速に進めると同時に、現在、交渉を進めているサービス業界、小売業界案件の獲得を通じて売上と利益を向上させる取り組みを強化します。これにより、両市場において当社の成長と価値の創造を継続していきます。

※本資料に記載されている業績予想及び配当予想は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、当社としてその実現を約束する主旨のものではありません。

実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

今後の業績動向等に修正が必要となった場合には、速やかに公表いたします。

以上